

進められるのでは。

- ② コロナ禍で、体験活動が減少しているが、地域の文化を継承していくためにも、なんでも「中止」ということにせず、適切な情報収集・判断が必要。子どもたちは「コロナだからこそ工夫しよう」と柔軟に考えや行動を変化させている。大人こそが、柔軟性を求められているのではないか。(ICTの活用なども含め)
- ③ 社会教育施設・活動自体の認知度を高めていく努力が必要。リピーターの口コミ、SNSなど新しい切り口で「まず知ってもらおう」ところに注力していく。

5 社会教育委員として、ワークショップを運営して感じたこと

- ・関係者が集って対話することの価値を改めて感じた。特に「次世代育成」といっても、様々な年齢・対象層の若者を、面的に支援していくためには、それぞれが強みを発揮して・役割分担しながら、柔軟に取り組みを進めていくことが必要。まさに大人側の協働が求められている中で、今回のように横のつながりをつくり、ともに事業を考える場は重要であると思う。
- ・次年度の各団体の事業設計をするタイミングで、本当に協働事業を考えるような、発展的な場も設けてみたいと感じている。